

漁業経営の6次産業化推進 (都市型沿岸漁船漁業者による直売活動支援)

鹿児島地域振興局 林務水産課

【背景・目的】

比較的大規模に営まれる魚類養殖業を除くと零細沿岸漁船漁業者が大多数を占める鹿児島市に於いて、漁業者自らが漁場から運ばれた「獲ったばかりの魚」を消費者に直接販売する6次産業化の動きが加速しつつある。

これまで個人的であった直販の取り組みは商品（鮮魚）の品数、数量がまとまらないこともあり大きく発展する可能性が小さかった。

ところが、漁獲物の直接販売を希望する複数の若手漁業者がグループを結成し、直販の事例と関係法令の学習を通して、直販市の試みを実践する中で個人的取り組みの弱点を克服し、大きく発展する可能性を示してきている。

こうした動きを後押しし、6次産業化定着に向けた動きを加速させることを目的とする。

【普及の内容・特徴】

地域振興推進事業（県単）を導入して、平成24年7月17日、谷山漁協組合員9名により結成された「谷山漁協朝獲れ地魚直販グループ」の活動を支援し、地魚の普及の先進事例研修とイベント的直販活動の指導を通して、常設の鮮魚直売所設置に向けた意識の向上と直売事業成功への確信を高めるとともに地域住民への地魚食の周知を普及の柱とした。

【成果・活用】

前年、結成された直販グループは県内外の先進事例研修と関係法令の学習、3回のイベント的直販市を試行して、本年4月以降、毎月第4日曜日に定期的な直販市を開催するに至った。併せて地魚の普及に関して8月に「ひたち地魚倶楽部」の視察研修を実施した。

直販市は、小型定置網や一本釣りの多種多様な地魚の活魚を中心に、直販市の趣旨に賛同する近隣漁協の漁業者や加工業者、農業者の生産物も販売され活況を呈し、定期開催することにより、固定客が出来、回を重ねるごとに来客数が増加していった。

直販市をスタートさせたことにより、これまで売り物にならないと思っていた魚が瞬時に売れることや対面販売でお客さんたちの喜ぶ顔に励まされたことなど漁業にやりがいと自信を持つに至った。

さらに、経済効果としては10回の直販市で110万円あまりの売り上げがあり、通常の出荷に比べると31万円あまりの所得増が試算されるなど大きな成果をあげた。

こうした成果は、魚食普及を図るため地元の保育園で園児と保護者、保育士を対象に出前授業「海の教室」を自主開催するなど、新たな活動に取り組む意欲につながり、また、父親のツボ網を手伝っていた青年が、サラリーマンを辞め、漁業後継者として、新たに小型定置網漁業を始めるなどの波及効果を生んだ。

現在、グループはプレハブ小屋を購入し、3月末の直販所オープンに向け具体的取り組みを進めている。

○谷山朝獲れ市



○朝獲れ市会場入り口の看板



○保育園で魚食普及活動



○先進事例視察研修（茨城県）



○朝獲れ市の案内チラシ

売切御免 第4日曜日は朝獲れ市

「今朝獲れた新鮮な魚と野菜をその日の食卓に!」をコンセプトに谷山漁協・JA谷山生産直売部会より毎月第4日曜日に実施しております。

雄大に広がる錦江湾で水揚げされた活きた魚を対面販売しながら格安でご提供致します。

14:00より

主 催 JF谷山漁業協同組合
JAグリーン鹿兒島谷山支店直売部会
場 所 鹿兒島市 七ツ島長水路出口
華やかな大漁旗が目印です!!
連絡先 谷山漁協朝獲れ市会長
横山 幸二 (090-1517-2990)

